

経営協議会の学外委員からの意見を法人運営に反映した主な事例（令和5年度）

経営協議会の学外委員からの意見	本学の取組状況
<p>〔意見〕</p> <p>老朽化に関しては、学内の予算で毎年対応していくということであった。ある年に老朽化対応のお金が必要となると、借金するわけにもいかないため、大学で計画的にお金を貯めていかなければならない。そのための基金制度を考える必要がある。</p> <p style="text-align: center;">（令和5年6月15日 経営協議会）</p>	<p>「減価償却引当特定資産」に関する取扱方針及び取扱規程を制定し、施設設備の老朽化などの対応のため、中長期的に資金を積み立てる制度を創設した。</p> <p>「減価償却引当特定資産」とは、国立大学法人会計基準の改定により新たに導入された会計制度であり、これにより将来の施設設備更新に備えること等を目的に、各事業年度における決算上の現金収支の差額を基礎として、年度を超えて資金を積み立てることが可能となった。</p> <p>本学は令和5年度に同制度を導入することで、従来の目的積立金とは別に、大学独自の判断により計画的に老朽化対策資金を留保することを可能とした。</p>

経営協議会の学外委員からの意見を法人運営に反映した主な事例（令和5年度）

経営協議会の学外委員からの意見	本学の取組状況
<p>〔意見〕</p> <p>千葉大学は特にどのような取組に重点を置いており、どのような自己評価をしているかを明確にしたほうが良い。</p> <p style="text-align: right;">（令和6年1月25日 経営協議会）</p>	<p>本学では、「千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”（Enhanced Network for Global Innovative Education）」の策定により「学部・大学院生の全員留学」を目指すほか、国際高等研究基幹（IAAR）による大型研究費の獲得や研究拠点の形成を目指すことを目的とした「研究支援プログラム」の実施や学術研究・イノベーション推進機構（IMO）による研究・イノベーションの創出の更なる活性化を目指し、本学の研究力の向上や産学連携機能の強化へ向けた取組を推進しており、適宜、評価指標（KPI）等により、その進捗を確認している。また、今後は現在整備を進めている千葉大学ポートフォリオを活用することにより、客観的データをもとに各施策の効果検証等を行い、適切な評価を実施するとともに本学の特性を十分に生かした法人運営を目指していく。</p>
<p>〔意見〕</p> <p>附属病院においては、独立採算を行っていて、収支及び現在の取組み等を報告しているが、他の部局は現在の予算状況を踏まえ、どのように取組みを進めていくのかが見えにくい。他の部局においても、附属病院のように報告していただくことが可能か検討していただきたい。</p> <p style="text-align: right;">（令和6年3月21日 経営協議会）</p>	<p>まずは、令和4年度より本学の財務諸表において、部局別の費用・収益に関する情報をセグメント情報として掲載していることから、その内容につき決算報告の説明の際に報告するようにしたい。</p>